

ほろにかが

令和3年7月15日
全国卸売酒販組合中央会

「コロナ禍を経験して」

神奈川県卸売酒販組合

理事長 原田 千蔵

みなさま、初めまして。令和2年度より神奈川県卸売酒販組合の理事長を務めています原田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

「コロナ禍」となり早いもので約1年半が経過しようとしています。現在、まだまだ出口が見えない状況ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？昨年の2月に大型クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号で新型コロナウイルスの陽性者が発見され、4000人近い乗客とスタッフが14日間にわたり、横浜港で船内に隔離されることになりました。しかし、当時の私はどこか他人事と捉えていました。得体の知れないウィルスが原因で、未曾有の出来事が自分の生活範囲内で起こっているにもかかわらず、「クルーズ船」という閉ざされた空間での出来事であり、自分には直接関わり合いのないものと考えていたのです。

それから今日まで、これまで経験したことのないような様々なことが国や自治体主導で行われてきました。昨年4月の初めには7都府県（10日後には全国に広げました）を対象とし第1回目の緊急事態宣言が発出。政府は、国民に対し「行動の変容」「人流の8割削減」「不要不急の外出自粛」を要請しました。この時の街の様子は、今でも忘れることができません。そして、この施策はわれわれ酒類業界にも大きな影響を及ぼしました。飲食店の時短営業や休業により業務用チャンネルでは売上げが大幅に減少しましたが、巣ごもり需要の増加で量販店や酒販店の店頭販売は大きく伸びました。

国税庁発表の令和2年酒類課税状況（令和2年1月～令和2年12月）を見ると、数量ベースで前年比94.2%となっています。この数字、皆さんはどう

お感じになりますか？もちろん、きちんと考えれば納得の数字かもしれませんが、直感的に私は「えっ？」と意外に思ってしまいました。当社は業務用チャネルの売上比率が非常に高く、令和 2 年の年間売上げの前年比は記録的な低水準でした。もともと売上比率が偏っていることは分かっていたのですが、改めて数字を目の当たりにするとショックが大きかったです。お恥ずかしい話ですが、今更ながら「リスク分散」にもっと真剣に取り組まなければならないと感じました。

今回のコロナ禍において、多くの辛いことや悲しいことを経験している一方で、前述のようにこれまで漠然と意識していたことを、改めて強く認識することができたのではないのでしょうか。この 1 年半の間に、生活環境や形態が大きく変化しました。これまで考えもしなかったことが「new normal」として常識になりつつあり、新型コロナの終息後においても、それらのことは定着するに違いありません。そのような外的要因の変化に加え、われわれ酒類業界には物流や雇用面での課題、飲酒人口・飲酒機会の減少による市場の変化への対応、アルコール健康障害対策基本法に基づき策定された計画への取組みが求められています。

「新型コロナウイルス」は非常に怖い存在ですが、変化を成し遂げるには良い機会なのかもしれません。オリ・パラ会場での酒類提供禁止が決定してしまったことは非常に残念でしたが、ワクチン接種が進めば少しずつ出口が見えてくるに違いありません。そう信じて、もう少し辛抱しようと思います。私が理事長に就任して以降、残念ながら中央会の懇親会はまだ一度も開催することができていません。一日でも早く、皆様にお会いし、盃を交わすことのできる日が来ることを心待ちにしています。